

私の名前は麻宮真輝（あさみやまき）
警察学校を卒業して半年程度の、まだ二十歳の
新米婦人警官です。
未熟者ですが、正義を愛する心は人一倍あります。
この街の平和と、住民の笑顔を守るために、
身を挺して頑張っていく所存です。



さて、そんな新米婦人警官の私ですが、
先日大きな事件に巻き込まれてしまいました。
雑居ビルに立てこもったテロリストが人質を取った事件です。
人質に危害を加えさせないために、私が身を挺して闘になりました。
まずはその事件について説明していききたいと思います。



in

● REC

G00

テロリストが立てこもったビルに向かった私は、テロリストに目をつけられ、人質の安全を保障する代わりに、彼らを楽しませる事を約束させられました。そしてテロリストの指示でマスコミのカメラがビルに入り、私はテロリスト達に輪姦されて処女を奪われ、子宮にたつぷりと精液を吐き出される様子を、全国に生中継させられました。



CH1■■■■■
CH2■■■■■

in



REC

TCG 00



CH1■■■■■■
CH2■■■■■■

私をレイプする事に飽きたテロリストは、
他の婦人警官を犯そうと考え始めましたが、
私はそれを阻止するために、自らの体を玩具にするよう
テロリストに提案し、テロリストはそれを承諾しました。

手始めにコスプレをさせられ、私は学生時代の
部活着であるテニスウェアに着替えさせられました。

その状態で大きく両足を開かされ、
犯されたばかりのオマンコを全国に生放送されながら、
金属バットを子宮の中にまでねじ込まれました。

CH1 ■■■■■■
CH2 ■■■■■■

● REC

金属バットを子宮にねじ込むという、常軌を逸した行動を取ったテロリストは、さらに私の子宮を玩具にすべく、子宮に挿入する物を自分で探せと命令を出しました。勿論、テロリストが喜ぶような、金属バットよりも酷い物でなければなりません。私はビルのトイレにあった、薄汚れたトイレブラシを選びました。

私は学生時代のスクール水着に着替えさせられ、自ら選んだ、汚物の不着する薄汚いトイレブラシを、子宮にまでねじ込まれる様子を、再びマスコミによって全国に放送されてしまいました。

CH1■■■■■
CH2■■■■■

in

● REC

TCG 00



CH1 ■■■■■
CH2 ■■■■■



in

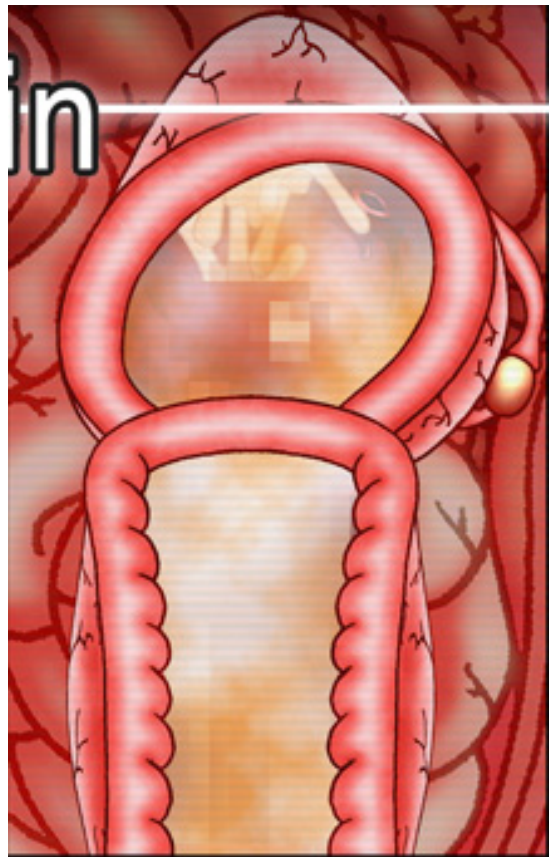
EC TCG 00

子宮の奥まで汚された私は、
学生時代の制服に着替えさせられ、
ビルの外にある公園へと向かいます。

私は、そこに定住している浮浪者を無理やり押し倒し、
トイレブラシの刺さったオマシコを見せつけた後、
浮浪者を逆レイプし、精液を搾り取っていました。

「
」

CH1■■■■■
CH2■■■■■



REC

TCG 00



CH1■■■■■■
CH2■■■■■■

浮浪者を逆レイプした私に、
犯人は屋外での生着替えを命令します。
私はそこで、レースクイーンの
衣装に着替えました。

私は犯人を楽しませるため、
そして犯人を油断させるために、
さらに過激で変態的な行動を取らなければなりません。

私は公園の茂みでうごめいていたナメクジを手に取り、
それを自らの膣へ、子宮へとねじ込んでいきました。



in



REC

TCG

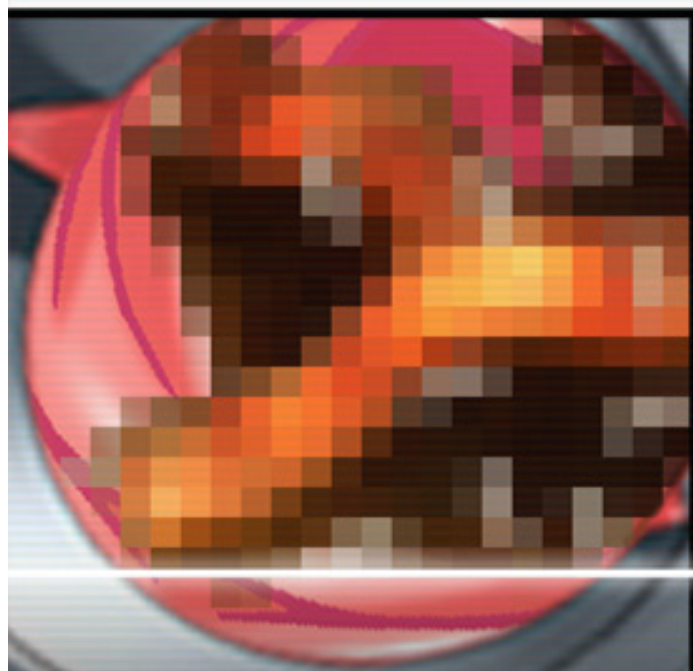
00



CH1■■■■■
CH2■■■■■

そして完全に油断した犯人は、
私にビルに戻る事を命じます。
私は小型カメラとマイクを仕込んだ
パニースーツに着替えた上で、
ビルへと戻ると、犯人の命令で、
自らの膣を広げ、開いた子宮の中に、
トイレにあつた腐敗した排泄物を
詰め込んでいきました。

そんな常軌を逸した状況に目を奪われ、
完全に油断していた犯人は、
室内の様子を把握した警察の部隊によつて狙撃され、
人質は無傷の状態で、無事に事件を解決する事が出来たのでした。





そして私は入院し、子宮に入った汚物等を除去し、治療を受けました。しかし、体は元に戻っても、元に戻らなかった物があります。その一つとして、私が犯された動画はネット上に広まってしまい、何度消してもアップロードされるといふ状況になってしまいました。そして二つ目は、私自身にも、生放送され数千万人の人間に見られながらの陵辱という、特殊な経験で快楽を得てしまった事で、それが性癖として体に刻み込まれてしまいました。



その後、無事退院し現職復帰した私に対して、人質を守るために身を挺したを評価した政府が、事件によって刻み付けられた性癖による行動については、犯罪として扱わず、さらには適切な治療や援助を受けられる、という特例を出しました。私は婦人警官として、正義を守るため、そして自分自身の欲求を満たすため、この特例を最大限に生かしていきたいと考えています。



さて、今日やってきたのは、あの事件の時に浮浪者を逆レイプした公園です。
いくら人質の命を守るためとは言え、法的に許されているとは言え、
逆レイプという強制わいせつを働いた罪を償うためです。

【浮浪者】「へへっ…今日も時間通りだな」

【真輝】「週に二回、貴方達の所に来て、この体を自由に使うてもらう。」

それが貴方達を逆レイプした私の償いですから」

【浮浪者】「こんな美人婦警を好きに出来るとか、ホント逆レイプされて良かったぜ」

【浮浪者】「二週間、チンコ洗わずに、チンカスたっぶり溜め込んでやったからな？」

婦警さんのオマンコでキレイにしてもらうぜ？」

浮浪者は全身から異臭を放ちながら、ペニスを固く勃起させながら、私に近づきます。

私はその匂いと、これから膣内をチンカスマみれにされる期待で、強く興奮してしまいます。





【浮浪者】「ほら、マン」広げて
俺たちに見せつける」

【真輝】「は、はいつ、わかりました」

そのまま男子トイレに連れ込まれた私は、
浮浪者の命令で両足を大きく開き、
パンスト越しにオマン」を広げました。

【浮浪者】「フーパンパンストでくばあとが、
生で見るよりエロいなコレ」

【真輝】「え、えへへっ…ありがとうございますっ…」

浮浪者は私のオマン」を見ながら、勃起したペニスを露出させます。





【浮浪者】「で、この靴1日履いてたのか？」
【真輝】「は、はいっ、履いてましたけど……」

浮浪者は私の革靴を脱がせ、思い切り匂いを嗅ぎました。

【浮浪者】「やっべ、足の匂いたまんねえ！
これはまず足で軽く抜いてもらおう。

チンカスはお前の中に入れてやるから、
チンカスを足で落とすんじゃねえぞ」

浮浪者はそう告げると、私の足裏にペニスを押し付けます。
私はチンカスを落とさないよう、身長に足コキをします。
浮浪者は、私のパンスト足裏の蒸れ具合を堪能しているようでした。





【浮浪者】「うっ…やべっ…出るっ！」
【真輝】「えっ？ あっ…！」

《どびゅるるるるっつつっ》

浮浪者は一週間オナ禁して精液を貯めこんでいたからか、
軽い刺激で射精してしまいました。

【浮浪者】「うわ、もう出したのかよお前」
【浮浪者】「足裏が気持ちよすぎるんだよ…やべえぞ」

私は、浮浪者の飛び散った精液をハンカチで拭きながら、
浮浪者の次の指示を待ちました。





【浮浪者】

「へへっ…折角だし、今日は
婦警の制服とパンストのまま
やらせてもらおうでしょうか。
ほら、入れやすいよう準備しろ」

私は浮浪者の指示に従い、パンストを破いて、
オマンコを露出させました。

【浮浪者】

「なんだ、もう濡れてるじゃねえか。
ホント、ドスケベ婦警だなお前は」

【真輝】

「えへっ…おじさんのオチンチン、楽しみです♡」

そして私は、ペニスを勃起させて床に寝転がる浮浪者の上にまたがりました。





【浮浪者】「へへっ、イイ光景だなあ」

【真輝】「あ、ありがとうございますっ…」

浮浪者の勃起したペニスの手前に座ると、目の前にあるチンカスマみれのペニスから、濃厚なオスの匂いが立ち上り、頭がくらくらしてきます。

【浮浪者】「もうお前を何度も犯してるけど、

そんなにチンカスチンポが気に入ったかい？」

【真輝】「は、はいっ…おじさんのチンカス、大好きですっ♡」

私がとろけた目でペニスを見つめ、匂いをかいていけると、

それだけで子宮がうずき、トロトロと愛液があふれ出していきます。

そして私は、浮浪者に促されるまま腰を持ち上げて、

そのペニスを割れ目にあてがい、ゆっくりと飲み込んでいきました。





《ずぶううううつつ》

【真輝】「あっ！ ああああああつつ！」

私が浮浪者のペニスを飲み込むと、待ち望んだその感触に、思わず喘ぎ声を漏らしてしまいます。

【浮浪者】「へへっ…相変わらずいい具合だぜ！」

【真輝】「ありがとうございますっ…♡」

【浮浪者】「あのテロリスト共に金属バットぶち込まれて、ゆるゆるになってるはずなのにコレだからな」

【真輝】「え、えへへっ…頑張ってますからっ♡」

いくら治療しているとはいえ、金属バットでこじ開けられた膣と子宮は、元に戻りません。その分は、頑張つて膣を締め付け、腰を動かしてカバーし、浮浪者を楽しませていきます。





【真輝】「それにほら…金属バットでこじ開けられて、子宮口もゆるゆるだから、こんな事もできるんですよ♡」

私がさらに腰を深く沈めると、申し訳程度に閉じていた子宮口が開き、ペニスの先端が子宮内部へとめり込んでいきます。

【浮浪者】「おおっ…来た来たっ…」

この子宮の感触、たまんねえっ…」

【真輝】「えへへっ…♡ 私の子宮の中、気持ちいいですか？」

浮浪者のペニスを子宮にねじ込んでピストンすれば、チンカスがどんどん子宮内部へと押し込まれていきます。敏感な子宮壁に伝わるザラザラしたチンカスの感覚が、とても気持ちよく、私は子宮内部を浮浪者のペニスでこすり続けました。





【浮浪者】

「うぐっ…だめだっ…子宮で鬼頭をこすり上げられると…」

「気持ちよすぎて我慢できねえっ…」

【真輝】

「出ます？ 精液出ちやいますか？」

「遠慮せず私の子宮に全部吐き出して下さいねっ♡」

その直後…

《どびゅっ…どびゅるるるっっっ！》

【真輝】

「あっ！ ああああああっっっ！——」

浮浪者が一週間溜め込んだ濃厚な精液が、私の子宮内部へとたたきつけられました。先ほど足コキで射精したにも関わらず、精液は子宮を満たし、卵管に流れ込み、そして膣の隙間から外へと溢れ出すほどの量でした。





【真輝】「はあっ…♡ はあっ…♡」

それから3分程、浮浪者の射精は続きました。
体の中にある精液全てを、私の子宮に吐き出すような射精に、
私は子宮内部を刺激され、連続で小刻みに絶頂してしまいました。

【浮浪者】「ぜえっ…ぜえっ…」

めちやくちや搾り取られたぜ！」

【真輝】「ふふっ♡ 気持ちよかったですか？」

【浮浪者】「さーで、今度は俺の番だぜ！」

婦警さん、俺のチンカスと精液も搾り取ってくれ！」

【真輝】「分かっていますよ。全部、私が搾り取りますからね♡」

私は浮浪者とながったまま、絶頂の余韻を心地よく感じつつ、
次の浮浪者の勃起したペニスの匂いに、再び興奮してくるのを感じていました。



